

エコロジカル・フットプリントで地球環境問題を考える

千秋達雄（元東京都老人総合研究所研究室長、元青山学院大学非常勤講師）

まえおき

7月7日付で、事務局長の羽根田様からコラムへの投稿歓迎のメールが着信しました。「長い専門の文章はちょっとむりですが、会員皆様が日頃、関心をお持ちのテーマなど、会員の皆さんに訴えたいことなど、素人にもわかるように書いてくだされば」とありました。現在、コラム欄には専門性豊かな方々からの重厚なPDFファイルばかりですが、お叱りを覚悟の上で、羽根田様からのメールの趣旨に沿うような小文を投稿させていただきます。

本 文

我々は化石エネルギーを利用して、生活の便利さを享受し、経済成長を遂げてきました。しかし我々の生存そのものは、化石エネルギーではなく、自然の恵みに依存しています。自然の恵みとは、地球に生きる微生物から高等生物からなる多様な生態系が、大気や水を浄化し、食糧・木材などを生産し、廃棄物を分解・吸収してくれるサービスに相当するものです。

人類が自然の恵みをどのくらい消費しているかを示す、エコロジカル・フットプリントという指標があります。人類全体のエコロジカル・フットプリントは、1980年代に地球一個分が提供できるサービスを超え、現在では20%以上も超過しています。これは返済能力を超えて借金をするようなものです。例えば、浸み込むより早い地下水の汲み上げや、資源再生能力を超える魚獲は一時的には可能でも、あとで高いツケを払うことになります。1人当りのエコロジカル・フットプリントは国や地域で大きく違ってきます。2003年値からの概算ですが、全ての人々が同じように暮らすと仮定すると、平均的アメリカ人並みなら地球が5.2個、EUの人々並みなら2.6個、日本人並みなら2.4個、中国人並みなら0.9個、インド人並みなら0.4個必要になります。

地球環境問題は、「2050年までに温室効果ガス排出量半減」を中心に論議されています。これは非常に破壊的な気候変動による被害を回避しながら経済成長を続けることを期待したのですが、もっと自然の恵みの許容限度を考慮した持続可能な未来像を描く必要があると思います。温室効果ガス排出削減の要は勿論ですが、地球が提供してくれる自然の恵みの範囲内に生活を改めて行くことが大切です。バイオ燃料推進で生じた混乱は、自然の恵みへの顧慮不足で生じたと言えるでしょう。

参考資料

著者のブログ：<http://blog.goo.ne.jp/coccolith/e/e042d593d1a64caabaad4515e8d8c1ed>

グローバル・フットプリント・ネットワークのウェブサイト：

[http://www.footprintnetwork.org/gfn\\_sub.php?content=datamethods](http://www.footprintnetwork.org/gfn_sub.php?content=datamethods)

エコロジカル・フットプリントの活用 地球1コ分の暮らしへ、ニッキー・チェンバース、クレイグ・シモンズ、マティース・ワケナゲル著、五頭美知訳（インターシフト 2005）